

生涯学習やまがた



八段錦・楊名時太極拳



菊地師範の講話も活動の楽しみのひとつ



CONTENTS

2 特集
命を守る防災学習—地域の防災力の視点から— (野元 弘幸氏)

5 令和4年度
山形県生涯学習センター事業紹介

6 明治安田生命の取り組みを紹介します！
地元の『公民館』元気プロジェクト

7 このまちに注目！
鮭川村教育委員会
山形県環境科学研究センター

8 information
山形県生涯学習センター助成制度のご案内、洗心庵からのお知らせ、
高齢者生きがいづくり・生活支援活動人材育成事業、地域づくり人材育成セミナー、山形県地域づくり実践交流集会

遊学の風景／洗心庵 多目的ホール
太極拳 白鶴の会

山形県生涯学習センター分館の洗心庵では、沢山の団体が活動しています。太極拳白鶴の会は結成6年目。菊地喜代一師範と長岡由紀子準師範を中心に、60～80代のメンバー15名で毎月3回活動しています。「健康・友好・平和」を理念に掲げ、太極拳を通し、より良い生き方を目指しています。メンバーからは太極拳を続けていくうちに、ようやく一つの動きの意味と奥深さがわかるようになってきた。そして何より仲間と一緒に活動できることが楽しいとの声。中には指導員の階位を取得される方も。お互いを尊重しながら学び合う様子が伝わってきました。多目的ホールは、四季折々の景色を眺めながら、集中して稽古ができると好評です。

新型コロナウイルス感染症や自然災害などの課題に対し、必要な知識を得たり、課題解決に向けて共に学び合う機会の充実は、あらゆる人々の「命を守る」ことに直結します。今号では地域の防災力を高める学習の意義や課題について、野元弘幸氏より寄稿していただきました。

「命を守る防災学習 —地域の防災力の視点から—」

東京都立大学人文社会学部教授
野元弘幸氏のもとひろゆき

1 防災への関心の高まり と広がる防災学習

東日本大震災から11年が経過する。この間、大規模災害による被害想定の見直しやハザードマップの更新、想定外の自然災害の多発により、防災に対する市民の関心は高まりつつある。首都圏では、甚大な被害が想定される首都直下型地震が今後30年以内に発生する確率が70パーセントであることが周知されつつあり、「自助・共助」を意識した住民主体の防災の取り組みが広がっている。地方自治体の積極的な取り組みに加えて、テレビや新聞などのメディアが、かつてないほどに災害や防災に関する報道特集を組んでいることも影響しているように思われる。

こうした防災への関心の高まりに伴い、防災学習も広がりを見せている。全国公民館連合会が2013年に実施した「全国公民館実態調査」※1によると、防災・減災に係わる講座や取り組み（防災訓練以外）を行っている公民館の32・7パーセントが東日本大震災以後に開始している。また、東日本大震災の復興の過程で課題となっていた震災遺構の整備や災害伝承館の建設などが、震災後10年を経て整いつつあり、これらの施設を利用しての防災学習も活発となっている。東日本大震災津波伝承館（岩手県陸前高田市）、大川小学校（宮城県石巻市）、荒浜小学校（宮城県仙台市）、東日本大震災・原子力災害伝承館（福島県双葉町）など、大小さまざまな学習施設が竣工しており、

防災学習の一環として修学旅行で訪れた児童・生徒が「語り部」の話を熱心に耳を傾ける姿も見られる。このように、全国で防災に対する関心が高まり、防災学習が次第に広がつつある現在、改めて、それらの防災学習で重要となる視点や方法について確認したい。



石巻市震災遺構大川小学校 2020年7月公開

2 地域から一人の犠牲者 も出さない

まず、第一に、地域から一人の犠牲者も出さないという視点である。私は、2011年の震災直後から復興支援と調査・研究のために岩手県大船渡市に通っているが、そこで、

「命の再発行はできない」という強く印象に残る言葉に出会った。岩手県大船渡市末崎地区で夫とともに鮮魚店を営む女性Fさんは、県内外から来る復興支援ボランティアや修学旅行生に対して「語り部」活動を行っているが、毎回必ず次のように参加者に問いかける。

「クレジットカードも免許証も銀行の通帳も印鑑も再発行できました、店や自宅も建て直すことができました。ただ、一つだけどうしても再発行できないものがありました。さてそれは何でしょうか」

野元弘幸氏 プロフィール



東京都立大学人文社会学部教授。専門は社会教育・生涯学習。在日外国人やアイヌ民族などマイノリティの教育、ブラジルの教育学者パウロ・フレイレの教育論の研究に加えて、東日本大震災以降は岩手県大船渡市での災害ボランティア活動に参加しながら、地域と学校における防災教育の研究に取り組む。編著『社会教育における防災教育の展開』（大学教育出版、2018年）。

※1 全国公民館連合会「公民館のゆらぎとその可能性—平成25年度全国公民館実態調査検討報告」平成28年3月。

「答えは、命です」とFさんは話に慣れた口調で、しかし思いをこめて語る。

被災時、Fさんはスマートフォンだけを手に持って、避難訓練で集合する高台に上り、そこから地区を見下ろしていたが、あっという間に津波が自宅兼店舗と地区の住宅を押し流すのを目の当たりにした。そして、しばらくして、東京から帰郷して隣まちの陸前高田市のスーパーでアルバイトを始めたばかりの娘さんが津波に飲まれて行方不明になっていることを知る。生存者によると、娘さんは地域のお年寄りを助けて一緒に避難するところを津波に襲われたという。残念ながら、Fさん夫妻は数日後に娘さんの亡骸と対面することとなる。

津波で娘さんを失った夫妻の無念はいかばかりであろう。仮設住宅から再建された自宅に移り、津波浸水域域がかさ上げされて商店街ができ、街もにぎやかさを取り戻しつつあるが、亡くなった人は決して戻ってこない。いやすことのできないさびしさを日々感じて生活する被災者が語る「命は再発行できない」という声に、私たちはしっかりと耳を傾け、たとえどんな災害が起ころうとも、自身と家族、友人、知人の命を絶対

に守りぬくという決意を持たなくてはならない。社会教育・生涯学習として行われる防災学習においても、「地域から一人の犠牲者も出さない」という目標を掲げることがまず重要である。



大船渡市での「語り部」活動

3 丁寧な防災訓練・防災学習の重要性

第二に、災害に備えて、事前に丁寧な防災訓練・防災学習を実施しておくことの重要性である。東日本大震災では、この当然と思われる防災訓練がすべての地域で行われていたわけではなく、結果として多くの方が津波の犠牲となった。また、福島

原発では甘い被害想定のために、津波による電源喪失で取り返しのつかない原発事故を起こしてしまった。そして、現在、全国各地で災害の発生が予想されているにもかかわらず、防災訓練や防災学習が行われていないところもまだ多い。

東日本大震災以降、多くの研究・調査が行われ、被災の記録を残そうという努力も行われてきているが、そうした取り組みのなかで明らかになったのは、震災前から丁寧な防災訓練・防災学習を展開していた地域や学校では、犠牲者が非常に少なかったという事実であった。教育関係者にとっては決して忘れることができるできない宮城県石巻市大川小学校の悲劇の原因は、大川小学校が沿岸部に位置する学校であったにもかかわらず、津波を想定した避難訓練を行っていないかたにされている。74人（4人はなお行方不明）の児童と10人の教職員が犠牲となっている。一方で、被災三県の沿岸部のほとんどの小中高등학교は、想定外の大津波に襲われたにもかかわらず、日頃の防災訓練と教職員の的確な判断により安全な高台に避難することができ、犠牲者を出していない。

地域においても、丁寧に防災訓練・

防災学習を行っていたところと行っていないかたところで、犠牲者の割合が10倍も差があることがわかった。公民館を核に避難訓練・防災学習が丁寧に行われ、犠牲者が少なかった岩手県大船渡市赤崎地区と、避難訓練が必ずしも適切に行われずに結果として多くの犠牲者を出してしまった宮城県名取市の閑上地区が事例として挙げられる。^{※2}

改めて、東日本大震災で犠牲となった約2万人の多くが、事前に防災訓練を行い、備えができていれば、その命を失わずに済んだ人たちがあつたことを思い起こして、災害が起きてから後悔することのないように、防災訓練・防災学習に取り組みなくてはならない。

4 地域の防災力を高める

そして、こうした丁寧な防災訓練や防災学習で命を守る取り組みを可能とするために、「地域の防災力」に着目し、その力を高めていくことが求められる。「地域の防災力」とは、地域から犠牲者を出さないように、地域住民が主体となって災害に向き合い、人的・物的な被害を最小限に食い止め、いち早く復興に歩みだすことのできる地域の組織力や人間関

※2 野元弘幸「大船渡市赤崎地区公民館の避難・復旧の経験に学ぶ」石井山電平編『東日本大震災と社会教育—3・11後の世界にむきあう社会教育—』国土社、2012年。「社会教育における防災教育の展開—東日本大震災記録誌の分析を中心に—」首都大学東京人文科学研究科『人文学報』第501号2015年、27-52頁。

係力、助け合いの力を意味する。防災の基本原則である「自助」「共助」「公助」の「共助」の基盤となる力である。

こうした地域の防災力に着目し、その力を高めるためには、どうすればよいのであろうか。災害発生時に必要な防災備品を地域で備えたり、

消火や救急救命のスキルなどを地域住民が獲得する機会を得ることは必要であるが、そうした機会を増やせば必ずと地域の防災力が高まってい

くわけではない。実は、自治会・町内会などの自治活動を活発にして、地域に顔の見える人間関係をつくり、その輪を広げていくことなくしては地域の防災力は強化されないことが過去の震災の経験から明らかとなっている。とりわけ、となり近所という小さい単位で災害時に安否確認のために声をかけあったり、助け合うことのできる関係を築くことが地域の防災力を高めることに直結する。

2004年の新潟県中越地震を経験した公民館職員は、次のように述べている。「町内などですっかりとまとまっている地域は、避難所にテントを立てるなどして本部を設け、決して十分とは言えない配給食糧に対して、それぞれの家庭に残っている食料や煮炊きの道具を持ち寄って炊

き出しをするなど自分たちで何とか不足を補おうと努力してきました。(中略)一方、地域でまとまっていないところは駐車場などで個々バラバラに車を停めてその中で宿泊するだけで、市の側としても救援物資を届けようにも受け取り手がなくて苦慮しました」*3

現在、全国各地で自主防災組織の結成が進められているが、都市部ではなかなか進まない。その理由の一つが、自治会・町内会などの地域における自治活動の停滞である。自治会・町内会が存在しないところもある。したがって、防災講座等においては、地域の防災力を高めるための学習をコアに、防災のスキルや知識に加えて、自治会・町内会など地域の自治活動の活性化をどう進めるかを学ぶ機会も必要である。

5 「防災」と銘打たない生涯学習の重要性

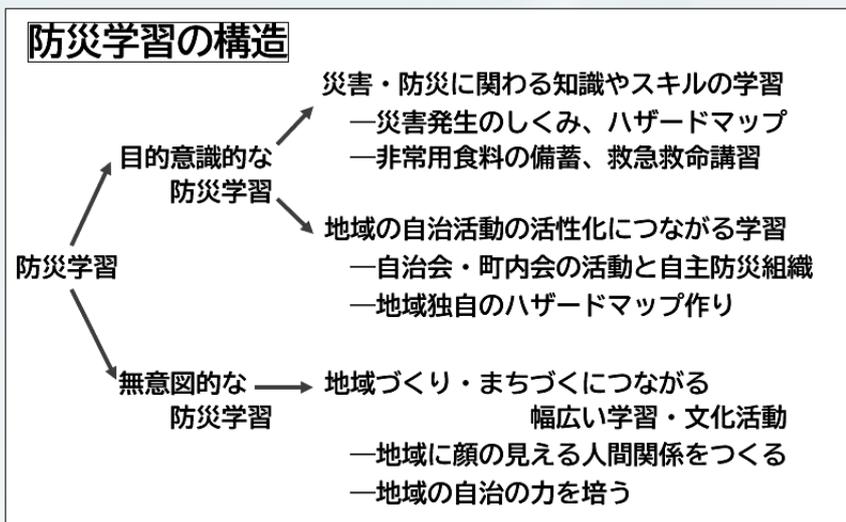
最後に、必ずしも「防災」と銘打たない生涯学習もまた、地域の防災力を高める学習として重要であることを指摘したい。地域の防災力を高める防災学習は、大別すると、目的意識的な防災学習と無意識的な防災学習の二つがある。前者は防災の知

識やスキルに係わる学習と、防災に係わる地域の自治の力を育てるための学習の二つに分かれる。後者は地域づくり・まちづくりにつながる幅広い学習・文化活動で、いわば、防災と銘打たない生涯学習で、公民館で行われる地域住民主体のサークル活動、文化活動、学習活動のすべてを含む。

公民館などの学習施設で行われる学習・文化活動は、集団活動を通じて地域の人と人をつなぎ、地域の自治の力を育む。こうして紡がれる人間関係や信頼関係、活動を通じての組織力が災害時には決定的に重要となる。なぜなら、災害時には人々は大きな不安に襲われ、精神的にも不安定になるが、サークル・グループ活動を通じて顔見知りとなった人と一緒にいることで安心感を得ることができるからである。また、災害時には日常の地域活動では通常求められない高度な組織力が必要となるが、サークル・グループ活動では内部のコミュニケーション、あるいは外部の団体や組織との交渉や交流を日常的に行っており、災害時の地域での組織活動にすぐに活かすことができる。さらには、

日頃のサークル活動を通じて、地域に多様な能力やスキルを持つ人(人材)がいることを知り、それらの能力を災害時の避難所生活や食料配布、復興プロセスに確実に活かすこともできる。

防災に関する目的意識的な学習はもちろんのこと、それに加えて、日頃のサークル・グループによる学習・文化活動を活性化させることも地域の防災につながることを確認したい。



*3 全国公民館連合会編『新訂・公民館における防災対策ハンドブック』第一法規、2017年、5頁

令和4年度

山形県生涯学習センター事業紹介

あなた やまがた たからびと

～1人ひとりの県民がいそいそと活躍する
「生涯学習社会やまがた」を目指して～

今年はこちらに注目!

学習情報・機会の提供



▲山形県生涯学習情報提供システム「やまがたマナビネット」

- **学習情報収集・提供事業**
「やまがたマナビネット」
- **長寿社会づくり推進事業**
- **「ふるさと塾」推進事業**
- **広報紙発行事業**

広報紙「生涯学習やまがた」発行

「やまがたマナビネット」では県内の講座・イベント、講師・指導者、団体・グループ、施設等の情報提供を行っています。地域・学校・家庭いずれの場でもご活用いただける情報が満載です!



▲今年度の「山形学」フォーラム・講座は「食」を通して、山形の地域課題について考えていきます。

- **「山形学」推進事業**
- 「山形学」フォーラム、「山形学」講座『遊学館ブックス』の発行
- **「山形学」地域連携講座支援事業**

平成2年の生涯学習センター開設時より中核事業として継続している山形学。毎年、多様な切り口から山形を学びます。今年度は、「食」をめぐる山形の地域課題をテーマに講座を開催。食を通して地域の課題や社会の変化を多角的な視点から捉え、これからの食と暮らしを考えます。

令和4年度助成金 青少年地域学習活動の募集について

山形県生涯学習センターでは、青少年の地域学習や地域づくり活動を支援するため、県内にある高等学校の特別活動及び課外活動等に助成を行います。是非ご応募ください。

補助対象団体

- ・県内の高等学校
- ・市町村教育委員会が推薦する高校生主体の地域貢献活動団体（NPO・ボランティア等）、事業遂行能力を有している団体

補助対象事業

- ・生涯による自主的かつ先進的な地域学習や地域づくり活動
- ・生徒が地域と協働で行う地域学習や地域づくり活動

募集数 8事業

補助成額・助成対象経費の例

助成額：助成対象経費または5万円（いずれか低い額）

＜経費対象経費の例＞

- 印刷費、チラシ、資料、事業記録などの印刷費等
- 連絡経費：チラシや案内状の発送費等
- 講師経費：活動にかかわる講師等の購入費等（5万円未満）
- 賞状等：活動の表彰、報告書、事業報告書等の印刷費等
- 経費：講師、指導者、協力者の旅費や交通、情報の交通費等
- 経費：講師、指導者、協力者、産物等に支払われる経費等

▲高校生の特別活動や課外活動での地域学習や地域づくり活動を応援します!

- **生涯学習活動支援事業**
- 地域生涯学習活動支援事業
- 青少年地域学習活動支援事業

- **生涯学習活動支援事業**
- 地域生涯学習活動支援事業
- 青少年地域学習活動支援事業

地域づくりの観点から、行政・団体・高校生等が開催する現代的課題の解決や社会の要請に応じた生涯学習事業への支援を行っています!

Check! P8

学習活動支援者の育成



▲パワーアップセミナーではグループでの「熟議」を通して、課題を解決していく手法を学びます!

行政職員向けの研修のほか、地域づくりに興味関心のある県民も対象にした研修を開催。今年度は「防災・減災」、「デジタルデバイド」をテーマに、事業企画と運営のスキルアップを図るための研修を開催します!

Check! P8

- **生涯学習関係職員研修事業**

パワーアップセミナー、地域づくり人材育成セミナー

- **高齢者生きがいづくり・生活支援活動人材育成等事業**

入門講座（フォーラム）、実践講座（担い手養成講座）
分野別研修（移動支援・有償ボランティアの仕組みづくり）、専門職派遣

- **シニア地域実践活動支援事業**

学習成果の活用



▲昨年度の地域学交流集会の様子。今年度から名称を改め、山形県地域づくり実践交流集会として開催します! (写真は南陽高校市役所部の皆さん)

- **「山形学」推進事業【再掲】**
- 山形県地域づくり実践交流集会

- **高齢者生きがいづくり・生活支援活動人材育成等事業【再掲】**
- マッチングセミナー、フォローアップ研修会

山形県地域づくり実践交流集会では、県内外で地域づくりや地域学の活動を展開する団体や個人が集まり、これからの充実した活動を展開する契機となるように交流し学び合います。

Check! P8

明治安田生命保険相互会社と 包括連携協定を締結しました!



公益財団法人山形県生涯学習文化財団では、生涯学習の推進及び文化活動の振興並びに男女共同参画社会の形成に向け、明治安田生命保険相互会社と包括連携協定を締結しました。今後は当財団の事業推進をはじめ、地域の活性化や人材育成支援等について、各々が有する知見や資源、ノウハウ等を活用し、様々な事業で協働して取り組んでまいります。なお、明治安田生命保険相互会社は地方自治体などと連携協定を締結しておりますが、生涯学習活動や文化活動を行う公益財団法人との締結は当財団が全国で初めてになります。締結式は2022年3月23日に文翔館で執り行われ、明治安田生命保険相互会社山形支社の勝部成支社長と当財団の細谷知行理事長が協定書を取り交わしました。

明治安田生命の取り組みを紹介します!



地元の『公民館』元気プロジェクト

明治安田生命は、全国公民館連合会とともに、全国に約14,000拠点ある公民館において、地域コミュニティの持続的な発展をテーマとした活動、「地元の『公民館』元気プロジェクト」に取り組んでいます。本プロジェクトは、明治安田生命が「豊かな地域づくりへの貢献」をめざし、地域社会が抱えるさまざまな課題やニーズに応える各種取り組みの一環として実施しているもので、公民館における社会教育を通じた「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」を支援するものです。

具体的には、公民館が行う地域住民向けの講座や講習会等に、明治安田生命が有する健康分野等の知見を活かした定期講座（以下、「MY定期講座」）を提供し、地域住民のQOL向上に資する実践的教育プログラムの拡充支援を図っています。

これまで開催した講座の内容は?

各公民館での「MY定期講座」の展開に向けて、2020年11月に高知県南国市の稲生公民館において、自治体・高知大学等の協力のもと、地域の高齢者を対象に「認知症対策」をテーマとした講座の試行実施を行いました。

実施にあたっては、受講者が認知症やMCI*等の正しい知識を「主体的に」「楽しく」学べるように座学はもとより、認知機能の測定やデュアルタスク体験等を組み込み、高知大学の学生とともに地域資源を活用した継続的な取り組みを展開しました。

その結果、受講者や公民館運営者だけでなく、文部科学省をはじめ各方面から高い評価をいただくことができました。

*健康な状態と認知症の間にあたる軽度認知障害と呼ばれる状態



このまちに注目!

地域の取り組みを
紹介します

鮭川村

鮭川村教育委員会
鮭の新切り教室

『ふるさとの食文化を学び、味わおう!!』

■事業内容■



令和4年度で17回を数える鮭の新切り教室ですが、村の伝統食の保存と鮭に関連する文化の継承や、郷土愛を育むことを

目的としています。講師にはサーモンロードの会や鮭川村食生活改善推進協議会の方から協力いただき、村内小中学校の児童生徒や保護者、その他一般の方に対して開催しています。

教室ではウライ（ヤナ）での採捕や鮭の卵のふ化場の見学、鮭の腹を捌き塩漬けにする新切り作り体験、雪が降り始める頃に塩抜きした鮭の寒風干しや、完成した新切りを使用した料理教室、鮭の一生についての学習、最後に稚魚の放流を行います。

■ここが大変■

自然とやりとりする部分が多く、計画通りにいかないこともあります。例えば、鮭の準備についても、直前まで何匹遡上するか分かりません。寒風干しをするにしても、いつから寒くなるのか、いつ美味しくなるのかを自然と相談しながら行います。

■ここがうまくいった■

例年だと新切りを使った料理教室では、参加者も一緒に調理をして食事会をするのですが、昨年度はコロナ対策として食生活改善推進協議会の方に調理していただいたお弁当を持ち帰るスタイルにして、調理の様子をオンラインで見られるようにしました。

参加者Voice

鮭の一生について学ぶことができた。鮭川で産まれたものがアラスカなんて遠い国まで行って、帰ってくることに驚いた。それを美味しく食べてあげたい。(10代、女性)

村山市

山形県環境科学研究センター
カン・カン・カン♪環強教室

『環境×観光=感動!』

■事業内容■



センターでの環境教室



六歌仙での見学と日本酒の試飲

カン（環境）・カン（観光）・カン（感動）を掲げて、県民の方により強く環境を意識してもらうため、当センターの環境教室+近隣の観光体験等（そば打ち体験、最上川三難所舟下り、陶芸（楯岡焼）、酒蔵見学（六歌仙））をセットにした企画です。昨年12月に酒田市八幡自治会長さん21名が初めて体験されました。

竹の植生に関する講義、当センターの活動紹介、間伐した竹を使用した門松づくりの体験後、蔵元の六歌仙で映像による酒蔵見学と日本酒試飲、お昼に三郎兵衛そばで手打ち板そばを食べ、環境学習と観光を満喫していただきました。

■ここが大変■

当センターは、県内で環境に関して体系的に学ぶことができる公的機関となっており、県民の方への環境教室を行っていますが、なかなか参加者を増やせない状況です。そこで、環境教室と観光体験を組み合わせ、より多くの方が参加しやすくなることを考え企画しました。

■ここがうまくいった■

近隣には魅力的な観光資源があり、環境教室で学んだ後に、もう一足伸ばして観光を楽しんで感動を持ち帰るといった一連の体験を「カン・カン・カン♪環強教室」という名称に込めています。連携する各施設からは快く承諾いただき、事業の趣旨を御理解のうえ、環境保全の取り組みを説明に織り込んでいただきました。また、大人の方が楽しめるように酒蔵見学を入れましたが、それを楽しみに参加された方も多数いらっしゃいました。

参加者Voice

環境について認識を新たにし、最新の酒造りも理解できました。大人も子どもも楽しめるプログラムが数多く用意されています。(60代、男性、自治会長)

当日の様子はこちらから!

動画URL→<https://youtu.be/uG9dxWE3sFM>





山形県生涯学習センター助成制度のご案内

2つの支援事業について二次募集を行う場合があります。
詳しくはHPをご確認ください。



助成金HP

<青少年地域学習活動支援事業>

高校生が行う地域学習や地域づくり活動を支援します！
・生徒による自主的かつ先進的な地域学習や地域づくり活動
・生徒が地域と協働で行う地域学習や地域づくり活動

<地域生涯学習支援事業>

現代的課題の解決や社会の要請に応じた地域住民向けの生涯学習事業を支援します！

洗心庵からのお知らせ

第9回洗心庵写真コンテスト 18歳以下

第9回洗心庵写真コンテストは、昨年同様U-18(18才以下又は高校在学中の方)対象で開催が決定しました！新しい時代を築く皆さまのご応募をお待ちしています。スマートフォンで撮影した写真でも応募可能です。応募全作品を展示します！

- 応募期間 令和4年11月1日(火)～令和5年1月31日(火)
- テーマ 自由(洗心庵の庭園・建物内で撮影した作品)
- 応募規定 A4サイズのみ、応募点数一人1作品
- 展示会 令和5年3月中旬以降 洗心庵多目的ホール(入園・入館無料)
- 問合せ 洗心庵(下記)へ

高齢者生きがいつくり・生活支援活動人材育成等事業

関係者向け

一般向け

高齢者が住み慣れた地域で自立した生活を継続するため、高齢者の生きがいつくり・生活支援活動に参加する担い手を育成します！詳細は後日、チラシやHPにてご確認ください！

生活支援活動ステップアップ講座 定員30名

活動で生じたニーズ等(有償ボランティアの仕組みづくりや移動支援等)に対応できるよう知識や技術を学ぶ研修

<移動支援> 11月8日(火)遊学館(山形市)・オンライン
11月9日(水)えくぼプラザ(南陽市)

<有償ボランティアの仕組みづくり>

11月16日(水)ゆめりあ(新庄市)・オンライン
11月17日(木)藤島地区地域活動センター(鶴岡市)

問合せ 山形県生涯学習センター(下記)へ

地域づくり人材育成セミナー 関係者向け 一般向け

公民館やコミセンなど、地域で実践できる課題解決のための講座・イベント等の事業企画と運営のスキルアップを目指します。

【地域の防災力を高める講座】

- 9月1日(木)シェルターホール南陽(南陽市)
- 9月3日(土)新庄市民プラザ(新庄市)

【ICT活用や情報格差解消講座】

- 9月9日(金)酒田市公益ホール研修室(酒田市)
- 9月17日(土)遊学館(山形市)

問合せ 山形県生涯学習センター(下記)へ

関係者向け 一般向け

山形県地域づくり実践交流集会

県内の地域づくりや地域学の実践団体や、関心のある方が集い、より一層充実した活動を展開するために学び合います。今年度はこれからの地域づくりの担い手育成について学びます。詳細は後日、チラシやHPにてご確認ください。

日時 11月6日(日)13:30～16:30

会場 遊学館(山形市)

講師 廣瀬隆人氏

((一社)とちぎ市民協働研究会代表理事)、
下平裕之氏(山形大学教授) ほか

編集後記

命を守り、誰一人として取り残すことのない社会の実現にむけて、多様な主体の協働とICTの活用で、つながる生涯学習や社会教育の取組が求められています。今年度は①命を守る生涯学習・社会教育、②ICT活用・デジタル・ディバイド解消、③子供・若者の地域・社会への主体的な参画、3つのキーワードから新しい時代の生涯学習・社会教育を考えていきます。(R)

編集発行 (公財)山形県生涯学習文化財団 令和4年7月発行

山形県生涯学習センター 〒990-0041 山形市緑町1-2-36 [遊学館]
TEL 023-625-6411 (貸館専用TEL 023-676-7182) FAX 023-625-6415
E-mail yama@gakushubunka.jp

URL <https://www.gakushubunka.jp/yugakukan/>

■開館時間 9:00～21:00 [夜間利用が無い場合は20:00まで]

■休館日 第1・3・5月曜日、第3日曜日、年末年始

洗心庵 [山形県生涯学習センター分館] 〒990-0041 山形市緑町1-4-28
TEL 023-664-2800 FAX 023-664-2816

■開館時間 9:00～21:00 [夜間利用が無い場合は19:00まで]

■休館日 毎週月曜日、毎月第3日曜日、年末年始

🎁 読者プレゼント 🎁

「生涯学習やまがた」をご覧いただいている皆さまに、感謝の気持ちを込めて、抽選で3名様へ遊学館ブックス最新刊『人々は疫病をどう乗り越えてきたか』(今年1月発売880円)をプレゼント！左記の山形県生涯学習センター広報紙担当あてに【①お名前・ご住所②入手場所③興味を持たれた記事④内容についてのご感想・ご意見・ご要望】を添えて、はがき・メール・FAXでご応募ください！締め切りは8月末です。

「生涯学習やまがた」
バックナンバーはこちらから！

